

菊池川流域 構図どうする

菊池、山鹿、玉名、和水の4市町でつくる菊池川流域日本遺産協議会は28日、構成文化財の菊池渓谷（菊池市）と八千代座（山鹿市）でフィールドワークを兼ねた写真撮影講座を開いた。流域の日本遺産の魅力を発信するフォトコンテストの関連イベント。

崇城大芸術学部准教授の甲野善一郎さん（47）が講師を務め、12月の江田船山古墳（和水町）と高瀬船着場跡（玉名市）に続き2回目。

菊池渓谷には15人が参加し、雪の積もった河原や流れ落ちる滝、そそり立つ大木などをアングルを工夫しながら

狙っていた。甲野さんは「滝を撮る時も手前に岩などを入れると奥行きが生まれ、スケール感が伝わりやすい」とアドバイス。熊本市の高波沙季さん（25）は「冬景色の渓谷は初めて。いい写真が撮れて楽しかった」と話した。

フォトコンテストは構成文化財が対象。各賞の受賞者には宿泊券や特産品などが贈られ、作品は2024年の同流域日本遺産カレンダーに採用される。7月末応募締め切り。同協議会観光推進部会（菊池市菊池プロモーション室）☎0968（25）7267。

（本田清悟）

日本遺産協議会 フォトコンテスト撮影講座



参加者1 菊池市
菊池渓谷にカメラを向ける撮影講座の様子

参加者に撮影の仕方をアドバイスする
崇城大の甲野善一郎准教授（手前）